

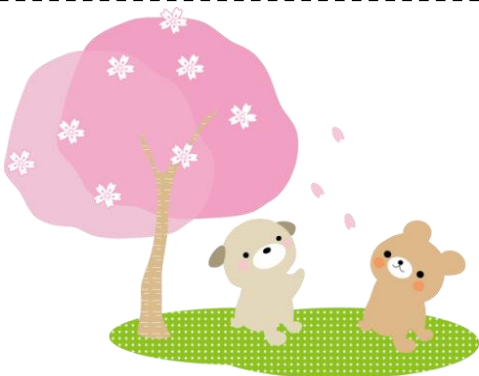
平成29年度湖南省「読書の魅力」種まきプラン推進プロジェクト（2月24日（土）開催）
「田澤雄作講演会 メディアにむしばまれる子どもたち～小児科医からのメッセージ～」
Q&A（田澤先生の回答）＜全3回＞1回目

Q1. 実際子どもにスマホやゲームをやめさせるにはどういう手立てがありますか？
また本人に自覚させる手立てを教えてください。

A. 小さな子には、親がだめだということをきちんと伝えれば、親の気持ちが伝わります。泣き出しても数日で落ち着くでしょう。スマホやゲームの代わりになるものが大切です。子どもと一緒に楽しく遊んだり、お話したり、食事をする準備をしておきましょう。
大きな子には、しっかりと事実（例：勉強する力、スポーツする力、お話する力を奪うこと）を伝え、家のルール（長時間にならないように毎日は見ない、しないこと）を決めて下さい。依存への進行を防止できます。もちろん、代わりの遊びや身体を動かすプログラムを助言してあげて下さい。
子どもの自覚する力は、年齢が進むにつれ成熟します。

Q2. 学童では子どもたちはゲームの話が中心で、ゲームを持っていない子は仲間はずれになったり、嘘をついて話をあわせたりしています。
そんな中、自己肯定感を持てるように育てていくヒントをいただければと思います。

A. ゲームをもっていない子は「ふつうのよい子」です。嘘をついて話をあわせているのは「えらいな」と思います。実年齢よりも「幼い心をもつ子ども」に囲まれた子どもたちを見守る大人（親）の存在が重要です。
子どもの未来を考え、「家のルール」でゲームを持たせず育てていたりゲーム以外に「楽しいことはたくさんある」ことを知っている保護者の存在が「ふつうのよい子」を心から支えます。
自分は見守られている、愛されていることを感じながら、困難を乗り越えて行くでしょう。



Q3.高校の教師ですが、静かに授業を受けさせるためにスマホを黙認してきましたが、彼らの心を壊す手助けをしていたと反省します。

A. スマホをやめられない子は「寂しい」のです。しかしその寂しい世界から逃げることができるが結局何も変わらない、時間が浪費されるだけがスマホの世界です。その中で、お守りを握りしめるように、一時の脆い安心を求めているのです。その子を見捨てず、自尊心を取り戻せるチャンスを見逃さず、助言してあげてください。

講演会・講師プロフィール

田澤 雄作（たざわ ゆうさく）

1948年生まれ。東北大学医学部卒業。秋田及び鳥取大助教授、国立病院機構仙台医療センター部長を歴任。現在は同センター小児科非常勤医。NPO「ワンダーポケット」理事長、日本小児科医会「子どもメディア」対策委員会・副委員長（2003-2012）。

【著書】

『テレビ画面の幻想と弊害ーむかつく・キレル・不登校の彼方にあるもの』悠飛社 2003年
『いま、子どもたちがあぶない！』（共著）古今社 2006年
『メディアにむしばまれる子どもたちー小児科医からのメッセージ』教文館 2015年



甲西図書館・石部図書館に
所蔵しています！！

Q&A（2回目）は5月号です